

(財)北九州市芸術文化振興財団
委託調査

北九州芸術劇場
事業評価調査
[報告書]

3

2006年3月
ニッセイ基礎研究所

北九州芸術劇場
事業評価調査
[本編]

第1章 2005年度事業の概要と実績

本章ではまず、過去2年間の調査と同様、事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2005年度の事業の実績について、整理した。

1. 事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と2005年度の事業概要は次のとおりである。

(1) 事業の基本方針

北九州芸術劇場では、「創る」「育つ」「観る」をキーワードにした事業展開が行われている。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **【創る】**: 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。
- **【育つ】**: アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。
- **【観る】**: 見る楽しみを知ってもらうため、舞台芸術の先進都市からエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

(2) 事業の内容と実績、入場者数

こうした3つのコンセプトに基づき、2005年度には次のような事業が実施された。

- まず、「創る」に対応した創造事業では、「ルル」(世田谷、松本公演)、「わたしの青い鳥」、「IRON」、「ダンスラボ」、「リーディングシアター」、「シアターラボ2006」の6本の公演事業が実施された。05年度から創造事業として本格始動した「ダンスラボ」では3回の公演、「リーディングシアター」では5シリーズ・6回の公演が行われている。
- また、北九州芸術劇場のプロデュース公演として、「ルル」は、世田谷パブリックシアター、まつもと市民芸術館で、「IRON」は、伊丹アイホール、まつもと市民芸術館、福岡西鉄ホール、熊本県立劇場、東京芸術劇場で公演が行われた。両公演の北九州芸術劇場以外での公演数は26回となっており、プロデュース公演の全国展開、リーディングシアターのシリーズ化などで05年度の創造事業の公演数、入場者数は大きく増加している。

図表1-1 事業実績の概要(2003年度～2005年度)

	2003年度			2004年度			2005年度		
	事業数	公演数・回数	入場者・参加者数	事業数	公演数・回数	入場者・参加者数	事業数	公演数・回数	入場者・参加者数
創造事業	3	35	13,350	4	15	3,292	6	45	9,332
公演事業	15	35	22,079	23	46	26,361	24	42	21,294
共催・提携事業	5	8	7,382	6	15	6,211	6	13	6,642
オープニング企画	2	2	1,592	—	—	—	—	—	—
演劇祭	2	9	987	2	9	1,231	2	7	2,779
計	27	89	45,390	35	85	37,095	38	107	40,047
	総席数	入場率	総席数	入場率	総席数	入場率			
公演事業	50,756	89.4%	41,808	88.7%	48,575	82.4%			
学芸事業	—	219	2,404	—	320	4,734	—	297	6,327
総合計	27	308	47,794	35	405	41,829	38	404	46,374

- 「育つ」に対応した学芸事業では、表現教育推進事業、劇場塾(戯曲講座、俳優講座、アーツマネジメント、舞台技術講座等)、演劇やダンスのワークショップ、バックステージツアーに加え、学校出前演劇ワークショップを4小学校で実施している。また、05年度からは、北九州で活動する次世代クリエイターの作品を紹介する公演事業、「Next Generation's Theater (NGT)」がスタートした。05年度は、延べ297回のワークショップや発表会等に6,327人が参加しており、ワークショップや発表会等の数は04年度に比べて少なくなっているが、観覧者が増えたことなどにより、参加者は約1.3倍となっている。
- 「観る」に対応した公演事業では、大ホールで「メンタル三兄弟の恋」、「ドレッサー」、「付馬屋おえん」といった商業演劇公演を行うとともに、中劇場を中心に、子どものためのシェイクスピア「尺には尺を」、「月猫えほん音楽会」などの子どもが楽しめる公演や、「イッセー尾形の一人芝居」などの小劇場・現代演劇公演、伊藤キム「禁色」、「時のなかの時ーとき」(北九州芸術劇場・パリ市立劇場・山海塾 共同プロデュース作品)などの話題性の高いダンス・現代舞踊公演など、幅広い公演事業を実施した。また、アジアパフォーミングアーツフェスティバルとして、「その河を越えて、五月」やダンスプログラムなどの韓国との合同公演も開催した。公演作品数は24本、公演数は42回で、入場者数は21,294人である。
- その他にも歌舞伎や狂言を含めた提携公演、北九州演劇祭なども実施しており、それらを含めた公演事業全体(創造事業、公演事業、提携事業、演劇祭)の事業数は38本、公演数は107回、入場者数は40,047人となっている。
- さらに、観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館の利用者などを含めた、北九州芸術劇場の利用者数、利用件数は下表のとおりで、05年度には自主事業、貸館事業合わせて約1,700件の利用件数があり、利用者数は約29万人となっている。04年度と比べ、自主事業での利用件数が増加しており、中劇場では利用者数も増加している。一方、貸館は、利用者数、利用件数ともに減少しており、特に中劇場を中心に、自主事業を主体とした利用にシフトしていることがうかがえる。
- 03年度からの延べ利用件数は約4,200件、延べ利用者数は約82万人におよぶ。

図表1-2 利用者数、利用件数(2003年度～2005年度)

	2003年度				2004年度				2005年度				累計
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	
自主事業	23,937 (66)	22,890 (143)	7,402 (121)	54,229 (330)	22,445 (87)	29,970 (242)	16,996 (404)	69,411 (733)	13,034 (102)	33,153 (289)	14,592 (471)	60,779 (862)	184,419 (1,925)
貸館	93,100 (205)	41,524 (145)	10,769 (99)	145,393 (449)	175,273 (482)	71,901 (325)	13,626 (176)	260,800 (983)	160,673 (467)	55,644 (229)	10,478 (130)	226,795 (826)	632,988 (2,258)
合計	117,037 (271)	64,414 (288)	18,171 (220)	199,622 (779)	197,718 (569)	101,871 (567)	30,622 (580)	330,211 (1,716)	173,707 (569)	88,797 (518)	25,070 (601)	287,574 (1,688)	817,407 (4,183)

*上段の数字が利用者数(単位:人)、下段()内の数字は利用件数

図表1-3 北九州芸術劇場 自主事業実績一覧(2005年度)

1 創造事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	ルル「世田谷公演」	世田谷パブリックシアター	4/8～17	12	5,800	4,695	81%
	ルル「松本公演」	まつもと市民芸術館	4/23～24	2	1,744	688	39%
	ルル 計			14	7,544	5,383	71%
2	合唱物語「わたしの青い鳥」2005	中劇場	7/10	1	487	357	73%
3	ダンスラボ	小劇場	9/3～4	3	300	245	82%
4	IRON「北九州公演」	小劇場	10/7～10	6	708	642	91%
	IRON「伊丹公演」	伊丹アイホール	10/15～16	2	240	200	83%
	IRON「松本公演」	まつもと市民芸術館	10/28～29	2	320	206	64%
	IRON「福岡公演」	西鉄ホール公演	11/5～6	2	532	434	82%
	IRON「熊本公演」	熊本県立劇場	2/11～12	2	324	300	93%
	IRON「東京公演」	東京芸術劇場	3/3～5	4	582	544	93%
	IRON 計			18	2,706	2,326	86%
5	北九州芸術劇場リーディングシアター「声に出して読むドラマ」シリーズVol.1～スケリグ	小劇場	9/10	1	120	96	80%
	北九州芸術劇場リーディングシアター「声に出して読むドラマ」シリーズVol.2～洞海湾	小劇場	10/20	1	134	128	96%
	北九州芸術劇場リーディングシアター「声に出して読むドラマ」シリーズVol.3～タンタジルの死・ロンググッドバイ	小劇場	11/26～27	2	260	245	94%
	北九州芸術劇場リーディングシアター「声に出して読むドラマ」シリーズVol.4～お月さまへようこそ	小劇場	12/22	1	120	90	75%
	北九州芸術劇場リーディングシアター「声に出して読むドラマ」シリーズVol.5～犬神	小劇場	3/4	1	131	120	92%
	リーディングシアター 計			6	765	679	89%
6	シアターラボ2006	小劇場	2/25～26	3	360	342	95%
	計			45	12,162	9,332	77%

2 公演事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	舞創会「沈清-シムチョン-」	中劇場	4/20	1	630	530	84%
2	シンデレラ・ファイナル	中劇場	5/22	1	601	370	62%
3	シティボーイズライブ「メンタル三兄弟の恋」	大ホール	5/24～25	2	2,356	1,529	65%
4	水と油「不時着」	中劇場	6/4	1	404	345	85%
5	その河をこえて、五月(日韓合同公演)	中劇場	6/11～12	2	1,020	876	86%
6	禁色	中劇場	7/3	1	592	331	56%
7	おんなの落語	中劇場	7/18～19	2	1,172	1,089	93%
8	子どものためのシェイクスピア「尺には尺を」	中劇場	7/24	1	609	415	68%
9	月猫えほん音楽会2005	中劇場	7/27	1	642	637	99%
10	おじいちゃんの夏	小劇場	8/5～7	4	472	460	97%
11	仲道都代「ゴメン!遊ばせクラシック」2005	中劇場	8/27	1	601	532	89%
12	電車男	中劇場	9/10～11	3	2,016	1,928	96%
13	演劇ネットワーク「イッセー尾形とフツの人々」	中劇場	9/17～19	3	1,702	1,387	81%
14	ドレッサー	大ホール	9/20～21	2	2,394	1,894	79%
15	付き馬屋おえん	大ホール	9/28	2	2,422	1,501	62%
16	韓舞2005「白い道成寺」	中劇場	11/13	1	642	530	83%
17	富良野塾「地球、光なさい!」	中劇場	12/12	1	648	586	90%
18	イッセー尾形ひとり芝居	中劇場	1/20～22	3	1,863	1,767	95%
19	劇団ラッパ屋「あしたのニュース」	小劇場	2/11～12	2	284	269	95%
20	G2プロデュース「BIGGEST BIZ」	中劇場	2/18～19	2	1,278	1,239	97%
21	クラウドディアからの手紙	中劇場	2/25～26	2	1,256	1,100	88%
22	山海塾「時の中の時-とき」	中劇場	3/11～12	2	1,080	961	89%
23	スケリグ	中劇場	3/21	1	491	398	81%
24	ハゲレット	中劇場	3/23	1	631	620	98%
	計			42	25,806	21,294	83%

3 北九州演劇祭

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	市民プロデューサー企画「晋作を愛した女たち」	中劇場	11/19～20	3	1,986	1,440	73%
2	第3回北九州パントマイムフェスティバル	中劇場	10/8～10	4	1,400	1,339	96%
	計			7	3,386	2,779	82%

4 提携事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場数	入場率
1	松竹大歌舞伎「十一代市川海老蔵」(共催)	大ホール	9/8	2	2,490	2,389	96%
2	青年団「S高原から」(提携)	小劇場	7/24	2	240	183	76%
3	沢木順ソロミュージカル「YAKUMO」(提携)	中劇場	10/21	1	628	375	60%
4	「万作の会」狂言(共催)	中劇場	11/9～10	3	2,076	2,003	96%
5	南河内万歳一座「仮面軍団」(提携)	小劇場	2/4～5	3	399	330	83%
6	春風亭小朝独演会	中劇場	3/24～25	2	1,388	1,362	98%
	計			13	7,221	6,642	92%

合計(創造・公演・提携事業・演劇祭)	107	48,575	40,047	82%
---------------------------	------------	---------------	---------------	------------

5 学芸事業

	事業名	会場	実施月	回数	対象	参加者数	備考
(ワークショップ参加)							
1	表現教育推進事業(実践)	小学校	5～1月	65	小学生	446	鴨生田小・西小倉小
	〃 鴨生田小5年発表	小学校	11/4～6	2	一般	850	観覧者
	〃 鴨生田小6年発表	小学校	2/10	1	一般	450	観覧者
	〃 西小倉小6年発表	中劇場	11/16	1	一般	200	観覧者
	表現教育推進事業(地域と演劇フォーラム・シンポ)	稽古場	5/29	2	一般	11	
	表現教育推進事業(地域と演劇フォーラム・WS)	小劇場	5/29	1	一般	32	
	表現教育推進事業(サマーセミナー)	稽古場	8/5～7、 8/19～21	10	一般+教職員	28	
	表現教育推進事業(中級理論)	稽古場	1～3月	8	一般	12	
表現教育推進事業(ドラマティチャーラボ)	稽古場	6～3月	10	教職員	22		
表現教育推進事業 計				100		2,051	
2	劇場塾(特別講座)	小劇場	5/22	1	一般	33	
	劇場塾(俳優講座)	稽古場	5～7月	6	一般	32	
	劇場塾(戯曲講座)	セミナールーム	5～9月	8	一般	10	
3	劇場塾(アーツマネジメント講座)	セミナールーム	6～11月	8	一般	9	
	劇場塾(リーディング公演)		10/22	1	一般	72	
	劇場塾(舞台技術基礎講座・照明)	小劇場	1/14～15	2	一般	13	
	劇場塾(舞台技術基礎講座・音響)	小劇場	1/16～20	4	一般	10	
	劇場塾(俳優実践講座・南河内)	小劇場	2/6～7	2	一般	13	
	劇場塾 計				32		192
4	チャレンジ! えんげき	小劇場	7/16～31	5	小学生	30	
	〃 発表	小劇場	7/31	1	一般	110	観覧者
	チャレンジ! えんげき 計			6		140	
5	バックステージツアー「時をかける劇場」	大ホール	8/13～14	4	小1～一般	111	
	バックステージツアー「劇場裏の奇跡」	中劇場	12/3～4	4	小1～一般	112	
	バックステージツアー「劇場裏で見つけた思い出」	大ホール	1/28～29	4	小1～一般	116	
	バックステージツアー 計				12		339
6	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」①	二島小学校	7/31	1	小学4年生	62	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」②	松ヶ枝南小学校	11/29	1	小学5年生	66	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」③	三郎丸小学校	11/30	1	小学3年生	97	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪!」④	南丘小学校	12/16	1	小学5年生	76	
	学校出前演劇ワークショップ 計				4		301
7	舞台芸術特別WS:水と油マイム+ダンスワークショップ	小劇場	4/8～10	5	子ども～一般	61	
	舞台芸術特別WS:RSCレクチャー「演劇にできること」	小劇場	10/24	1	一般	41	
	舞台芸術特別WS:室町ダンス教室	稽古場	12/9～11	4	一般	29	
	舞台芸術特別WS 計				10		131
8	高校生のための演劇塾	大ホール、中劇場、稽古場	8/1～3	6	高校生	52	
9	「おじいちゃんの夏」G2演劇ワークショップ	稽古場	8/2	1	一般	20	
10	演劇ネットワーク「イッセー尾形ができるまで」WS	中劇場	9/13～16	4	一般	132	
11	パントマイム学校アクティビティ	市内小学校、福祉施設、病院他	9～10月	14	一般	1,227	
12	韓国舞踊「白い道成寺」ワークショップ	稽古場	10/14	1	一般	15	
	ワークショップ参加 計			190		4,600	

	事業名	会場	実施月	回数	対象	参加者数	備考
(創造参加)							
1	ネクストジェネレーションズシアター:劇団二番目の庭「マシーナリーピッツ」	小劇場、稽古場	4/16～17	3	一般	197	観覧者
	ネクストジェネレーションズシアター:飛ぶ劇場オブシアター「夕暮れスーパー」	小劇場、稽古場	4/22～23	3	一般	296	観覧者
	ネクストジェネレーションズシアター:のこされ劇場「Re:曖昧のかたまり」	小劇場、稽古場	4/29～30	3	一般	304	観覧者
	ネクストジェネレーションズシアター 計			9		797	
2	合唱物語「わたしの青い鳥」2005	中劇場他	5～7月	15	小4～一般	128	
3	ダンスラボ	小劇場、稽古場	8～9月	23	一般	25	
4	北九州ドラマ創作工房	吉田市民センター	9～3月	12	小4～一般	38	
5	第3回北九州パントマイムフェスティバル	小劇場	9～10月	15	子ども～一般	678	観覧者
6	劇場塾 リーディング公演	稽古場	10/22	4	一般	51	観覧者
7	シアターラボ	小劇場、稽古場	1～2月	29	一般	10	
創造参加 計				107		1,727	
計(学芸事業)				297		6,327	
総計				404		46,374	

(3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の2005年度の稼働率は、大ホールが79.4%、中劇場が68.5%、小劇場が74.7%となっており、昨年度と比較すると、中劇場で若干稼働率が下がったが、ほぼ04年度の水準を維持している。なお、稼働率算出の基準が若干異なるが、(社)公立文化施設協会加盟館の全国平均の稼働率59.8%(04年度)と比較すると、依然高い水準にある。

図表1-4 北九州芸術劇場の稼働率(2003年度～2005年度)

	2003年度			2004年度			2005年度		
	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場
公演日数	99	100	83	219	207	220	223	189	222
利用対象日数	103	107	86	277	283	304	281	276	297
稼働率	96.1%	93.5%	96.5%	79.1%	73.1%	72.4%	79.4%	68.5%	74.7%

注) 稼働率は「稼働日数/利用対象日数」、利用対象日数は、保守点検日・調整日を除いたもの

2. 事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について、2003年度、2004年度と同様の分析を行った。

(1) 事業費の財源と事業支出の内訳

- 北九州芸術劇場の2005年度の事業費は約2億9,700万円で、その財源の内訳は図表1-5のとおりである。内訳は、チケット収入が37.0%、市の補助金が41.0%、文化庁と(財)地域創造の外部資金が22.0%となっている。2004年度に比べて、チケット収入の割合が減り、市の補助金は増えているが、2割以上を外部資金で賄っており、劇場のファンドレイズの努力が伺える。
- なお、チケット収入の割合が減っているのは、05年度から、チケット収入に直接結びつかない「創る」、「育つ」に対応した育成型の事業に重点をおいたこと、その結果、公演事業が中・小劇場での特徴ある現代・小劇場演劇やダンス・現代舞踊などを中心としたラインナップに移行したこと(図表1-3参照)など、北九州芸術劇場の運営戦略に基づいているものと考えられる。
- 財団運営の公立ホールの平均的な事業費の財源((財)地域創造調査、02年12月)をみる

と、チケット収入の割合は、都道府県立の施設が41.0%、政令市・特別区立の施設が45.7%、補助金の割合が同じく54.0%、50.9%、外部資金の割合が同じく4.9%、3.4%となっており、このデータとの比較では、北九州芸術劇場の05年度のチケット収入の割合は全国を下回るが、外部資金の獲得で大きな成果をあげることで、市の補助金の割合は全国平均よりかなり下回っていることがわかる。

図表1-5 事業費の財源内訳(2003年度～2005年度)

(千円)

	2003年度		2004年度		2005年度		備考
	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳	
チケット収入	215,389	54.1%	145,429	43.2%	110,060	37.0%	
市補助金	112,225	28.2%	124,198	36.9%	121,965	41.0%	
外部資金	70,700	17.7%	67,000	19.9%	65,295	22.0%	
文化庁	(49,000)	(12.3%)	(49,000)	(14.6%)	(45,795)	(15.4%)	外部資金の内数
地域創造	(10,000)	(2.5%)	(18,000)	(5.3%)	(19,500)	(5.3%)	
日本財団	(11,700)	(2.9%)	—	—	—	—	
計	398,314	100.0%	336,627	100.0%	297,320	100.0%	

(2) 事業収支

- 北九州芸術劇場の2005年度の文化振興特別会計の収入の部の決算報告をみると、04年度に比べて、予算額が減少しており、また、予算額と決算額との差異は広がっている。事業収入の予算額が減少しているのは、05年度は、戦略的な運営方針から予算規模の大きい公演が減少し、中・小劇場での育成型事業や公演事業が中心となっていることが要因であろう。
- 05年度の予算額と決算額の差異は、事業収入が約2,000万円、補助金等収入が約3,200万円など、04年度より拡大している。これは、当初予定されていた公演事業のうち、実施されなかったものがあること、開館から3年が経過し、交渉力や効率性の向上が経費削減に結びついていることなどが影響していると考えられる。また、事業収入の差異より補助金収入の差異が大きい点は、チケット収入などの経営努力の成果だと言えよう。

図表1-6 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額(2003年度～2005年度)

(千円)

	2003年度			2004年度			2005年度		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
事業収入	194,300	215,389	△ 21,089	146,346	145,429	917	130,500	110,060	20,440
補助金等収入	205,700	182,925	22,775	209,300	191,198	18,102	219,500	187,260	32,240
市補助金	135,000	112,225	22,775	135,000	124,198	10,802	151,000	121,965	29,035
助成金	70,700	70,700	0	74,300	67,000	7,300	68,500	65,295	3,205

第2章 観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、2005年度の観客の特性、観客からみた北九州芸術劇場の評価を整理・分析した。

1. 観客調査の実施要領

- 調査の対象: 2005年度に実施した主催・共催事業公演 34公演
- 配布・回収方法: 各公演の開演時に配布、終演時に回収(後日ファックス、郵送にて回収も受付)
- 実施時期: 2005年4月20日～2006年3月27日
- 有効回答数: 3,073件、回収率: 18.1%(配布数: 17,018件)

(1) 観客の属性(p.資-10～21)

- 性別は、「女性」が81.9%、「男性」が18.1%と、「女性」が高い割合を占める(無回答を除く)。
- 平均年齢は43.4歳。最も割合が高いのは「30歳代」(22.7%)、次いで「18～29歳」(19.6%)となっている(無回答を除く)。年齢の偏りはほとんどなく、幅広い年齢層からの来場がある。
- 居住地域は、「北九州市内」が60.7%、「北九州市周辺」が11.3%で、北九州市域からの来場者が72.0%を占める。ジャンル別に居住地域をみると、パントマイムフェスティバルなど市民参加型の事業が分類されている「その他のジャンル」では、「北九州市内」からの来場割合が高い(75.9%)。一方、「ダンス・現代舞踊」では、「北九州市内」からの来場者は50.7%で、「福岡市」(11.4%)や「下関市」(7.4%)などからの来場者が多い。
- チケットクラブには回答者の24.0%が入会している。非会員のうち、今後入会意向があるのは20.5%である。

(2) 北九州芸術劇場での公演鑑賞の実態

① 来場公演のジャンル(p.資-24～25)

- 回答者が来場した公演のジャンルは、「ミュージカル・商業演劇」が33.3%、「小劇場・現代演劇」が27.4%、「古典芸能」が16.1%となっている。来場公演のジャンルを男女別にみると、男性が多いジャンルは「小劇場・現代演劇」(38.0%)、女性が多いジャンルは「ミュージカル・商業演劇」(35.4%)である。また、年齢別にみると、「18歳未満」では「小劇場・現代演劇」(36.9%)と「パフォーマンス」(30.8%)、「60歳以上」では「古典芸能」(39.3%)、18歳～50歳代では「ミュージカル・商業演劇」の割合が高い。「パフォーマンス」には、「月猫えほん音楽会」などの子どもが鑑賞しやすい公演が含まれているため、若年層の来場者が多いと考えられる。
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど「小劇場・現代演劇」の鑑賞割合が高く、鑑賞経験が少ないほど「ミュージカル・商業演劇」の鑑賞割合が高い。

② 公演情報の入手経路(p.資 I -26～27)

- 公演情報の入手経路は、全体では「友人・知人から聞いた」(24.2%)の割合が最も高い。次いで「ダイレクトメール」(19.0%)、「新聞」(17.5%)であるが、いずれの年齢層も「友人・知人から聞いた」という口コミの割合が高い。
- 年齢層でみると、50歳代と60歳代では「新聞」、40歳代では「ダイレクトメール」、30歳代以下では「友人・知人から聞いた」の割合が最も高い。18歳未満では「その他」の回答割合が顕

著に高いが、これは学校などからの便りや案内で来場している人が多いためと考えられる。

- チケットクラブ会員では、「ダイレクトメール」(53.0%)と「他の公演で配布されたチラシ」(23.7%)の割合が、非会員と比べて顕著に高い。一方、非会員では、「友人・知人から聞いた」の割合が29.9%と高く、口コミが重要な情報源となっている。なお、北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみても、鑑賞経験が多いほど「ダイレクトメール」、「他の公演で配布されたチラシ」を、鑑賞経験が少ないほど「友人・知人から聞いた」を情報源としている割合が高い。

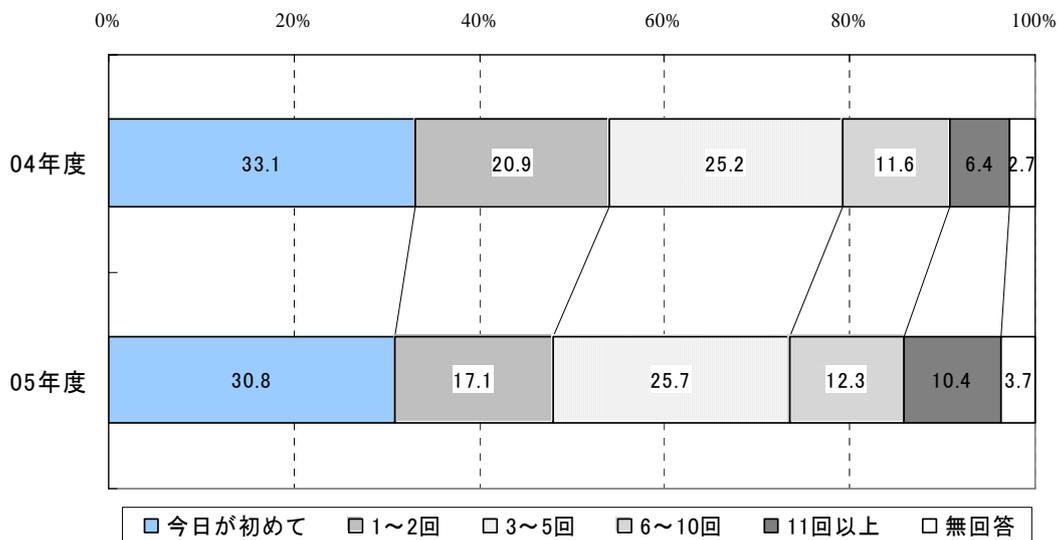
③公演に来た理由(p.資-28~29)

- 公演に来た理由は、「出演者等が好きだから」、「公演内容が面白そうだったから」がそれぞれ約半数となっている。18歳未満では、「劇場に来てみたかったから」、「人に誘われたから」が、他の年代に比べて高い。

④北九州芸術劇場での鑑賞経験(p.資-48~49)

- 北九芸術劇場での鑑賞経験は、「今日が初めて」が30.8%と最も割合が高く、「年3~5回」が25.7%、「年1~2回」が17.1%と続いており、初心者からリピーターまで幅広い鑑賞者がある。「6~10回」と「11回以上」への回答割合は2004年度に比べて若干増加しており、継続的に劇場に足を運ぶ観客が増えていることがわかる。ジャンル別では、「小劇場・現代演劇」の来場者で鑑賞回数が多くなっている。
- チケットクラブ非会員では、北九州芸術劇場での鑑賞が「今日が初めて」が40.5%を占める。一方、会員では、「11回以上」が29.4%(04年度に比べて+11.5%)と最も割合が高く、次いで「6回~10回」が27.1%(04年度に比べて+1.8%)となっており、鑑賞頻度は高い。

図表2-1 北九州芸術劇場での鑑賞頻度(2004年度・2005年度の比較)



⑤公演前後の飲食やショッピング(p.資-30~31)

- 公演鑑賞者の60.7%が公演前後に飲食・ショッピングをしており、平均金額は飲食の場合が1,687.5円(回答者の割合:51.2%)、ショッピング(同:25.6%)の場合が6,568.4円である。

(3)公演や劇場に対する満足度(p.資-32~41)

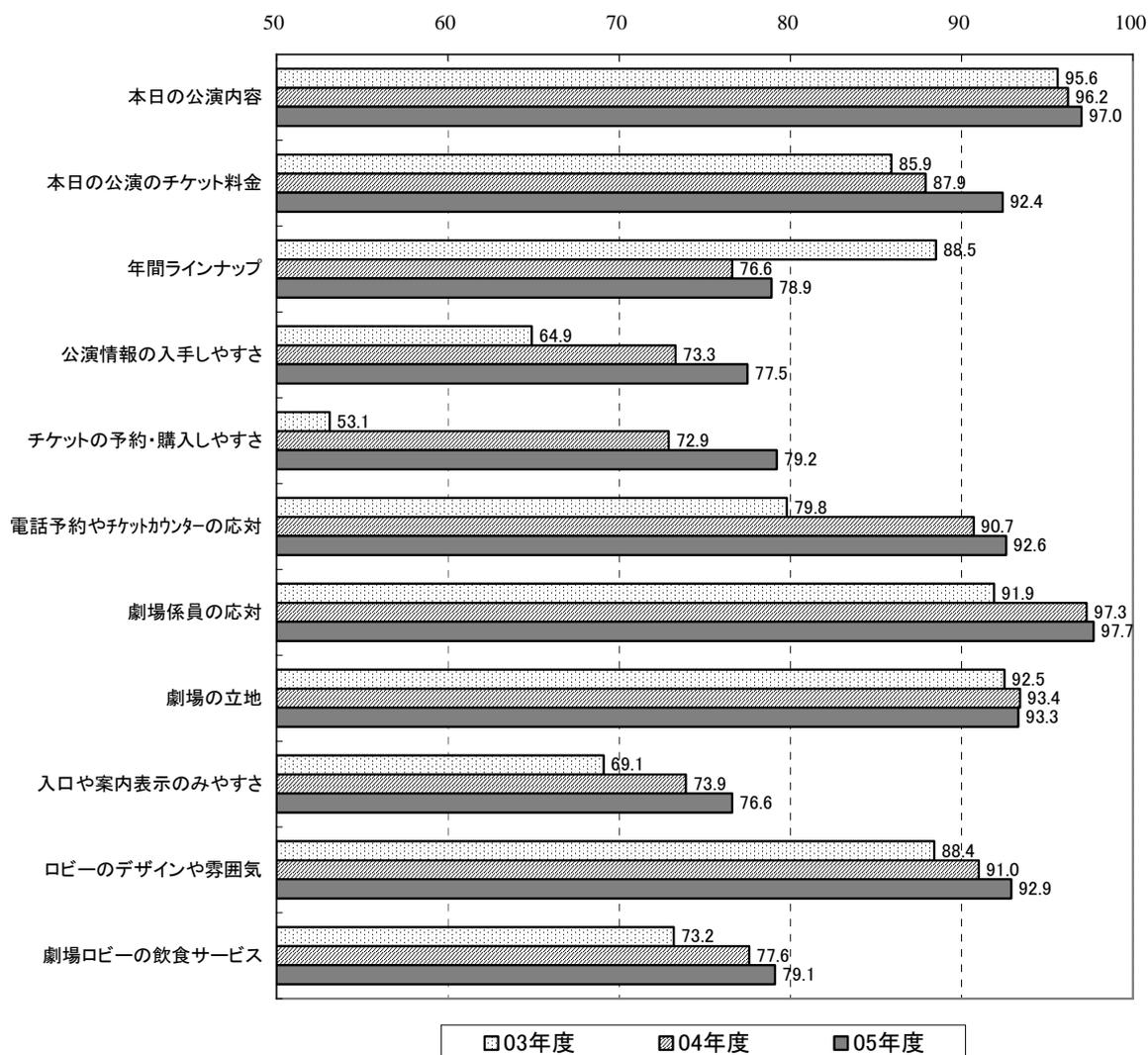
- 満足度に関する11項目のうち、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場係員の応対」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」、「劇場の立地」の6項目で満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回

答を除く)が90%を超えている。特に、「本日の公演内容」については、「たいへん満足」の割合が52.1%、ジャンル、年齢、性別に関わらず高い評価を得ている。

- 年齢別にみると、50歳代、60歳代以上では、他の年齢層に比べて、多くの項目で「たいへん満足」の割合が低い。特に、「入口・案内表示の見易さ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」といった劇場のハード面でその傾向は顕著である。
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、「公演情報の入手のしやすさ」で、鑑賞経験が多いほど「たいへん満足」の割合が高くなっており、鑑賞経験を重ねることで、容易に情報を入手している。
- 2003年度から04年度で向上した満足度(満足層の割合)は、05年度調査でも「劇場の立地」以外のすべての項目でさらに上がっている。特に、03年度、04年度と他の項目に比べて満足層の割合が若干低かった「本日の公演のチケット料金」は+4.5%、「チケットの予約・購入のしやすさ」については+6.3%となっている。「本日の公演のチケット料金」に対する満足度が向上しているのは、公演の内容への満足度が高いことも影響していると考えられる。

図表2-2 満足層の割合(2003年度～2005年度 3ケ年の比較)

(%)



- 04年度に引き続いて公演内容と劇場係員の対応に関する満足度が高いこと、チケット料金や入手に関する満足度が向上したことは、劇場側の努力を反映した結果として、大いに評価できよう。
- なお、満足度については、いずれの項目も年齢層が高くなるほど満足度は低くなる傾向がある。また、ほとんどの項目で女性の方が満足度は低い傾向がある。
- 劇場に関する総合的な満足度は、満足層が92.6%、「たいへん満足」の割合が20.1%で、04年度と比べて、若干ではあるが、満足層、「たいへん満足」の割合ともに高くなっている。年齢層が低いほど「たいへん満足」の割合が高い。

(4) 劇場の運営方針について(p.資-42~44)

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」については、いずれも90%以上が賛同している(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」)。
- 「創る」、「育つ」の2つについては、年齢層が低い層で「ぜひやってほしい」と積極的に賛同する割合が高い。特に「育つ」については、「18歳未満」の年齢層で78.5%が「ぜひやってほしい」と回答している。

(5) 日頃の鑑賞活動について

① 日頃コンサートや演劇に出かける頻度(p.資-46~47)

- 日頃コンサートや演劇に出かける頻度は、「年に3~4回」(25.6%)、「年に1~2回」(21.2%)、「年に5~9回」(18.6%)となっており、来場者の日頃の舞台芸術の鑑賞頻度は多様である。
- 性別では、「男性」で「月に3回以上」(10.5%、女性に比べて+6.6%)の割合が高い。また、年齢別では「30歳代」、ジャンル別では、「ダンス・現代舞踊」の鑑賞者で高い傾向がある。
- なお、北九州芸術劇場での鑑賞は初めてでも、日頃月1回以上コンサートや演劇に出かける人(「月に1回程度」~「月に3回以上」の計)は11.6%となっている。

② 興味のあるジャンル(p.資-50~52)

- 全体では、「有名俳優の演劇」(53.2%)、「ミュージカル・宝塚歌劇」(51.2%)、「映画」(52.8%)の3ジャンルが50%以上と高い割合となっているが、「小劇場・現代演劇」(44.6%)、「寄席・演芸・お笑い・独演会等」(38.9%)、「能・狂言・文楽・歌舞伎等」(37.6%)など、興味のあるジャンルは多様である。
- 興味のあるジャンルは、性別や年齢で異なり、性別で見ると、男性は「映画」、「小劇場・現代演劇」、女性は「有名俳優の演劇」、「ミュージカル・宝塚歌劇」への回答割合が高い。年齢で見ると、50歳代以上では「有名俳優の演劇」、40歳代以下では「映画」の割合が最も高いが、他の年齢層に比べ、若年層で「小劇場・現代演劇」、「ポップス・ロック」、60歳代以上で「能・狂言・文楽・歌舞伎等」、「クラシック音楽」への回答割合も高い。

第3章 市民からみた北九州芸術劇場

本章では、本調査とは別に2005年度に実施された北九州市民へのアンケート調査の結果から、市民からみた北九州芸術劇場として、劇場に対する市民の認知度や意識等を整理・分析した(調査票を資料Ⅱに掲載)。

1. 市民調査の実施要領と調査項目

(1) 調査の実施要領

- 対象者: 2005年12月28日現在18歳～79歳の北九州市民 3,000名
- 対象者の抽出方法: 北九州市7区ごとの住民基本台帳による性・年齢階層別抽出
- 実施方法: 郵送による発送、回収
- 実施時期: 2006年2月3日～2006年3月15日
- 有効回答数: 863件(回収率: 28.8%)

(2) 調査項目

- 北九州芸術劇場の認知度
- 北九州芸術劇場への来場・利用の状況
- 北九州芸術劇場の運営方針等
- 日頃の鑑賞活動や文化芸術に関する意識
- 回答者の属性(居住区、居住歴、性別、家族構成、年齢、職業)

(3) 調査の集計方法

- 集計にあたっては、「性別」、「年齢」、「居住区」、「職業」、「居住歴」の属性5項目が基本分析軸として設定されている。

※質問項目ごとの集計にあたっては、不明(無回答)を除いて割合(%)が算出されている。観客調査では不明(無回答)を含めた割合となっているため、比較をする際には留意が必要である。

2. 市民調査結果の概要

(1) 回答者の属性(p. 資-61～62)

- 市民調査への回答者は、男性が33.6%、女性が60.8%と女性の回答割合が高い。
- 年齢は、50歳代が22.6%、60歳代が20.2%と、ともに約20%、次いで、70歳以上が15.3%、40歳代と30歳代が10%台前半、10歳代、20歳代は10%未満となっており、回答者は比較的高い年齢層が多い。
- 居住区は、北九州市7区のうち、八幡西区が24.0%と最も回答割合が高い。一方、最も回答割合が低いのは若松区(7.5%)である。
- 職業は、会社員の割合が最も高く22.8%、次いで、専業主婦(22.6%)、無職(19.0%)、パート・アルバイト(10.9%)である。
- 北九州市での居住歴は、30年以上が63.4%と高い割合を占める。

(2) 北九州芸術劇場の認知度について(p. 資-63～69)

- 北九州芸術劇場の存在を知っている人は83.7%、知らない人は16.3%である。
- 知らない割合が全体と比べて高いのは、性別では男性、年齢層では60歳以上、居住区で

は門司区、八幡西区、職業では無職であるが、顕著な差ではない。北九州芸術劇場の存在は、性別や年齢、居住区等を問わず広く認知されている。

- 日頃北九州芸術劇場に関する情報を目にするのは、「市政だより」が51.5%、次いで「新聞」(34.2%)、「雑誌・タウン情報誌」(27.1%)となっている。年齢別にみると、30歳代以下では「雑誌・タウン情報誌」、40歳代以上では「市政だより」の割合が高い。また、年齢が高い層で新聞やTVなどのマスメディアや「友人知人から」といった口コミから北九州芸術劇場に関する情報を入手している人が多い。
- 北九州芸術劇場については、94.3%が「リバーウォーク北九州の中に立地している」ことを知っており、認知度においては複合施設であることがプラスに働いていると考えられる。また、「演劇やダンスなど幅広い公演事業を実施している」ことを知っている割合も66.6%で、公演事業についてはある程度認知されている。しかし、「本格的な舞台作品を創っている」(18.6%)、「バックステージツアーやワークショップなどを開催している」(12.0%)、「学校と連携した事業を実施している」(5.3%)、「アトライブラリーで情報や雑誌、本を公開している」(5.4%)への認知度は低い割合にとどまっている。

(3)北九州芸術劇場への来場・利用の状況について

①来場・利用の状況(p.資-73~78)

- 北九州芸術劇場に来場・利用したことがある人は43.7%、ない人は56.3%である。来場割合が高いのは、性別では女性、年齢別では40歳代以上である。また、居住区別では小倉北区、門司区の割合が他の居住区に比べて若干高く、来場・利用には劇場への距離やアクセスの便利さが関係していると考えられる。
- 来場・利用したことがある場合、1位は「大ホール」(63.4%)、2位は「中劇場」(48.2%)、3位は「北九州市立美術館分館」(40.5%)である。
- 来場・利用の目的は、1位が「公演鑑賞のため」(53.4%)、2位が「家族や友人が出演する公演などの鑑賞のため」(37.5%)である。一方、「特に理由はないが、リバーウォークに来たついでに」も17.5%となっている。
- 来場・利用の頻度は、「2~3回」が36.3%、「1回」が25.0%である。年齢別では50歳代以上、居住区別では小倉北区、小倉南区、職業では、パート・アルバイトや無職で来場頻度が高い。時間的な自由度や劇場への距離やアクセスの便利さが来場頻度に影響しているといえよう。

②北九州芸術劇場への意見(満足度)(p.資-79~83)

- 劇場全般に関する満足度5項目(「劇場係員の応対」、「劇場に関する情報入手のしやすさ」、「劇場の立地」、「劇場の入口や案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」)についてみると、「劇場係員の応対」は、満足層(「たいへん満足」+「まあ満足」)の割合が90.4%と満足度が高い。また、「劇場の立地」と「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」についても、満足層の割合は約80%である。観客調査と比べると、満足層の割合については大差がないが、「たいへん満足」という積極的な評価の割合は低い。
- 「劇場に関する情報入手のしやすさ」は、満足層が52.5%、不満足層(「少し不満足」+「まったく不満足」)が47.4%、「劇場の入口や案内表示のわかりやすさ」は、満足層が41.2%、不満足層が58.3%となっており、上記3項目と比べて不満を感じている人が多い。観客調査で見ると、情報入手のしやすさや表示のわかりやすさは来場経験が多いほど満足層の割合が増える項目であり、回答者の約60%が来場経験3回以下であることも影響していると考え

られる。

③公演前後の飲食やショッピング(p.資-84~87)

- 来場・利用の前後に、飲食やショッピングをする人は64.1%で、うち「ほぼ毎回」も39.9%である。10歳代~30歳代の若い年齢層では「ほぼ毎回」の割合が高い。飲食・ショッピングをする場合、「3,000円前後」の割合が28.6%で最も高く、次いで「6,000円以上」が18.9%である。

④北九州芸術劇場での公演鑑賞の状況(p.資-88~89)

- 北九州芸術劇場に公演鑑賞のために来場したことがある場合、鑑賞した回数は「2~3回」が43.3%を占めるが、1回から10回以上まで鑑賞回数は幅広い。性別では女性、年齢層では40歳代以上、居住区では門司区、小倉北区、小倉南区で、複数回の鑑賞経験を持つ人が多い。
- 北九州芸術劇場ができる以前から舞台芸術を鑑賞していたかどうかについては、「はい」が78.1%、「いいえ」が21.9%で、北九州芸術劇場が鑑賞のきっかけになった人も約20%となっている。

⑤北九州芸術劇場での公演やチケット入手等への意見(満足度)(p.資-90~94)

- 公演鑑賞に関する満足度5項目(「公演の内容」、「公演のチケット料金」、「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」、「電話予約やチケットカウンターでの対応」)のうち、「公演の内容」については、満足層の割合が93.8%、「たいへん満足」の割合も36.6%を占める高い評価となっている。また、「公演のチケット料金」、「電話予約やチケットカウンターの対応」も、満足層の割合はともに80%以上である。これら3項目は、観客調査でも評価が高い項目である。
- 「公演情報の入手のしやすさ」は、満足層が59.4%、「チケットの予約・購入のしやすさ」は、満足層が62.1%と、「公演の内容」、「公演のチケット料金」、「電話予約やチケットカウンターの対応」の3項目に比べて、満足層の割合が低くなっている。市民調査では、「劇場に関する情報入手のしやすさ」についても満足層の割合も低く(p.14②)、劇場や公演に関する情報をいかに来場経験の少ない市民に伝えるかが課題といえよう。
- 北九州芸術劇場の総合的な満足度は、「まあ満足」の割合が71.0%、満足層の割合は77.9%である。(p.資-99)

⑥チケットクラブへの入会状況(p.資-95~96)

- チケットクラブに入会しているのは11.3%である。

⑦北九州芸術劇場ができて変わったこと(p.資-97~98)

- 北九州芸術劇場に来場・利用するようになっての鑑賞活動や日常生活での変化は、「劇場・ホールで鑑賞する機会が増えた」が28.2%、「生活の中で芸術文化に触れる機会が増えた」が21.6%、そのほか、「現代演劇やダンスなどに興味を持つようになった」、「普段出会えない人に出会えるなど、人間関係に広がり生まれた」等、回答は多様である。年齢別にみると、若い年齢層に比べて、60歳代、70歳代以上で「普段出会えない人に出会えるなど、人間関係に広がり生まれた」の割合が高い。

⑧北九州芸術劇場に来場したことがない理由と今後の来場の意向(p.資-100~102)

- 来場したことがない場合、その理由については、「公演や催しに関する情報が得られないから」(30.9%)、次いで「自分の観たい公演をやっていないから」(28.9%)、「仕事や勉強などで時間が取れないから」(27.9%)の3項目への回答割合が高い。なお、「演劇やダンス、音楽などに興味がないから」は14.6%と8項目の理由の中では低く、興味はあるが、さまざま

な理由から来場の機会を持っていない人が多いといえよう。

- 性別では、男性は「仕事や勉強などで時間が取れないから」、女性は「自分の観たい公演をやっていないから」と「公演や催しに関する情報が得られないから」が1位の理由となっている。年齢別では、20歳代と40歳代で「仕事や勉強などで時間が取れないから」、30歳代「育児期で時間が取れないから」の割合が他の年齢層に比べて高い。なお、いずれの年齢層でも「公演や催しに関する情報が得られないから」への回答割合は高い。
- 居住区別にみると、若松区と八幡西区では、「劇場が自宅や勤務先から遠いから」への回答割合が特に高い。
- 今後の来場・利用の意向については、「機会があれば行ってみたい」が68.6%、「ぜひ行ってみたい」が9.2%で、77.8%が来場・利用の意向を持っている。

(4) 北九州芸術劇場の運営方針などについて

① 劇場に関する意見(p.資-105~106)

- 北九州芸術劇場についての意見では、「これからの時代には必要な施設である」が46.0%と最も高い。また、「北九州市の文化行政のシンボルあるいは中心となる文化施設である」も34.9%となっている。「贅沢すぎる」(4.2%)、「自分にはあまり関係のない施設」(15.2%)といった意見は少なく、北九州芸術劇場については、肯定的に捉えている市民が多いといえよう。
- 一方、「施設や催しに関する情報が限られており、どんなことをやっているのかわからない」も44.3%と、「これからの時代には必要な施設である」に次いで高い割合となっており、広く市民に劇場や公演に関する情報を届けることの難しさがうかがえる。
- 性別でみると、男性はいずれの項目についても女性に比べて回答割合が高く、肯定的な意見への回答も多い一方、「施設や催しに関する情報が限られており、どんなことをやっているのかわからない」や「自分にはあまり関係のない施設」への回答も多い。
- 年齢別でみると、40歳以下では、1位が「施設や催しに関する情報が限られており、どんなことをやっているのかわからない」、2位が「これからの時代には必要な施設である」となっており、若い年齢層で、必要な施設ではあるが、どんなことをやっているのかわからないという意識が高い結果となっている。
- 一方、50歳代以上では、1位が「これからの時代には必要な施設である」、2位が「施設や催しに関する情報が限られており、どんなことをやっているのかわからない」であるほか、「北九州市の文化行政のシンボルあるいは中心となる文化施設である」、「誇りに思う」への回答割合も40歳以下と比べて高い。

② 劇場の運営方針について(p.資-107~109)

- 劇場の3つの運営方針について、賛同する人(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」)の割合をみると、「観る」:89.7%、「創る」:81.4%、「育つ」:89.7%となっており、いずれも80%を超えた高い賛同率である。「ぜひやってほしい」という積極的な賛同も、「観る」:55.3%、「創る」:31.6%、「育つ」:51.2%となっている。観客調査と比べて、3項目とも賛同の割合は若干低く、また、「観る」、「創る」については「ぜひやってほしい」の割合も低くなっているが、「育つ」については「ぜひやってほしい」の割合は高く、舞台芸術を通じた子どもや地域の育成事業への市民の期待は大きいことがうかがえる。

③ 劇場の活動への要望(p.資-110~111)

- 北九州芸術劇場に今後実施してほしい活動では、「国内外の質の高い演劇やダンスを紹

介してほしい」(50.8%)と「子どもや高齢者等を対象とした活動を充実してほしい」(45.4%)への要望が高い。性別では、男性で「北九州芸術劇場独自の公演を企画してほしい」の割合が女性に比べて高い。

- 年齢別では、30歳代と40歳代で「学校や福祉施設などとの協力関係を強化してほしい」、「子どもや高齢者等を対象とした活動を充実してほしい」の割合が他の年齢層に比べて高く、子育てや介護に関わっている世代で、教育や福祉との連携を望む声が高い。

(5) 日頃の鑑賞活動について

① 鑑賞にでかけるジャンル(p.資-115~118)

- 鑑賞にでかけるジャンルとしては、「映画」が54.6%と飛び抜けて割合が高い。そのほか、「美術」(29.5%)、「ミュージカル・宝塚歌劇」(28.3%)、「有名俳優の演劇」(26.0%)となっている。特によく鑑賞するジャンルも「映画」(39.9%)の割合が最も高い。
- 性別では、男女ともに「映画」への回答が最も高いが、特に、女性では「宝塚歌劇・ミュージカル」、「クラシック音楽・オペラ」、「美術」への回答割合が男性に比べて高い。年齢別では、40歳代以下では「映画」の割合が70%以上と顕著に高い。また、30歳代以下では「ポップス・ロック」、40~50歳代では「美術」、40歳代以上では「能・狂言・文楽・歌舞伎」、60歳代以上では「寄席・演芸・お笑い・独演会」の回答割合が高い。
- 市民調査では、観客調査と比べ「映画」以外のすべてのジャンルで回答割合が低い傾向がある。

② 日頃の鑑賞活動(p.資-119~124)

- コンサートや演劇の公演に出かける頻度は、「年に1~2回」が36.4%、「ほとんどない」が32.6%で、両者をあわせると69.0%である。
- 鑑賞にかかる年間の費用は、「10,000円未満」が51.8%、次いで「10,000~30,000円」が36.3%で、30,000円以下が88.1%を占める。
- 過去1年以内に利用した施設は、「北九州市立美術館」(32.0%)、「博多座」(17.6%)、「響ホール」(16.1%)などである。年齢別にみると、40歳代以上では比較的回答が多いが、30歳代以下では回答が少ない傾向がある。
- 今まで利用したことのある文化施設の中で、最も気に入っている施設として具体的な記入があったのは、1位「博多座」(75件)、2位「北九州市立美術館」(30件)、3位「響ホール」「厚生年金会館」(27件)、5位「アクロス福岡」(22件)、6位「福岡シティ劇場」(19件)、7位「北九州芸術劇場」(13件)となっており、上位に福岡市に立地する3施設が入っている。

第4章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の運営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、2004年度調査に引き続き、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、03、04年度調査に引き続き、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

今年度の調査では、昨年度同様、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算することとした。

(1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出(最終需要)は、
 - ①劇場の運営管理に関する支出
 - ②劇場の主催事業に関する支出
 - ③劇場の主催事業の観客の消費支出
 - ④貸館の事業主催者の事業支出
 - ⑤貸館事業の観客の消費支出の5つに分類することができる(図表4-1参照)。
- 今回の調査では、①、②については、劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて、把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、今回は調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演当たりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアから集客したり、同じような消費活動を行ったりしているとは考えにくいいため、⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。
- ①、②、③にともなう最終需要の金額は、それぞれ6億9,000万円、5億1,100万円、1億9,700万円であり、合計で13億9,800万円となっている。そのうち、73.9%にあたる10億1,400万円が、北九州市内での最終需要である。
- これらの最終需要にともなう経済波及効果は、①劇場の運営管理、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出の順に、9億6,100万円、7億5,700万円、2億9,100万円となっており、合計で20億900万円である。そのうち、67.4%にあたる13億5,300万円が北九州市内での経済波及効果である。

- 生産誘発係数は、全体で1.44、北九州市内で1.33である。
- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみ)は、9億300万円～10億6,200万円、生産誘発係数は1.33である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約29.1～30.7億円で、北九州市内に限ってみると、約22.6～24.1億円となっている。
- また、これ経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数(労働量)では190～207人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)で161～173人で、対個人サービス、商業、対事業所サービス、運輸などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表4-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
運営管理・主催事業	①運営管理 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億9,000万円 (5億9,200万円)	9億6,100万円 (7億9,400万円)	1.39 (1.34)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	5億1,100万円 (2億9,700万円)	7億5,700万円 (3億9,400万円)	1.48 (1.32)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	1億9,700万円 (1億2,500万円)	2億9,100万円 (1億6,600万円)	1.48 (1.32)
	小計	13億9,800万円 (10億1,400万円)	20億 900万円 (13億5,300万円)	1.44 (1.33)
貸館(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	2億4,100万円 ～3億6,100万円	3億1,800万円 ～4億7,700万円	1.32
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費	4億3,800万円	5億8,500万円	1.34
	小計(参考値)	6億7,800万円 ～7億9,900万円	9億 300万円 ～10億6,200万円	1.33
合計(参考値)		20億7,600万円 ～21億9,600万円 (16億9,300万円～ 18億1,300万円)	29億1,100万円 ～30億7,000万円 (22億5,600万円～ 24億1,500万円)	1.40 (1.33)
		雇用効果 (北九州市内)	190～207人(就業者ベース) 161～173人(雇用者ベース)	

注) 下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。

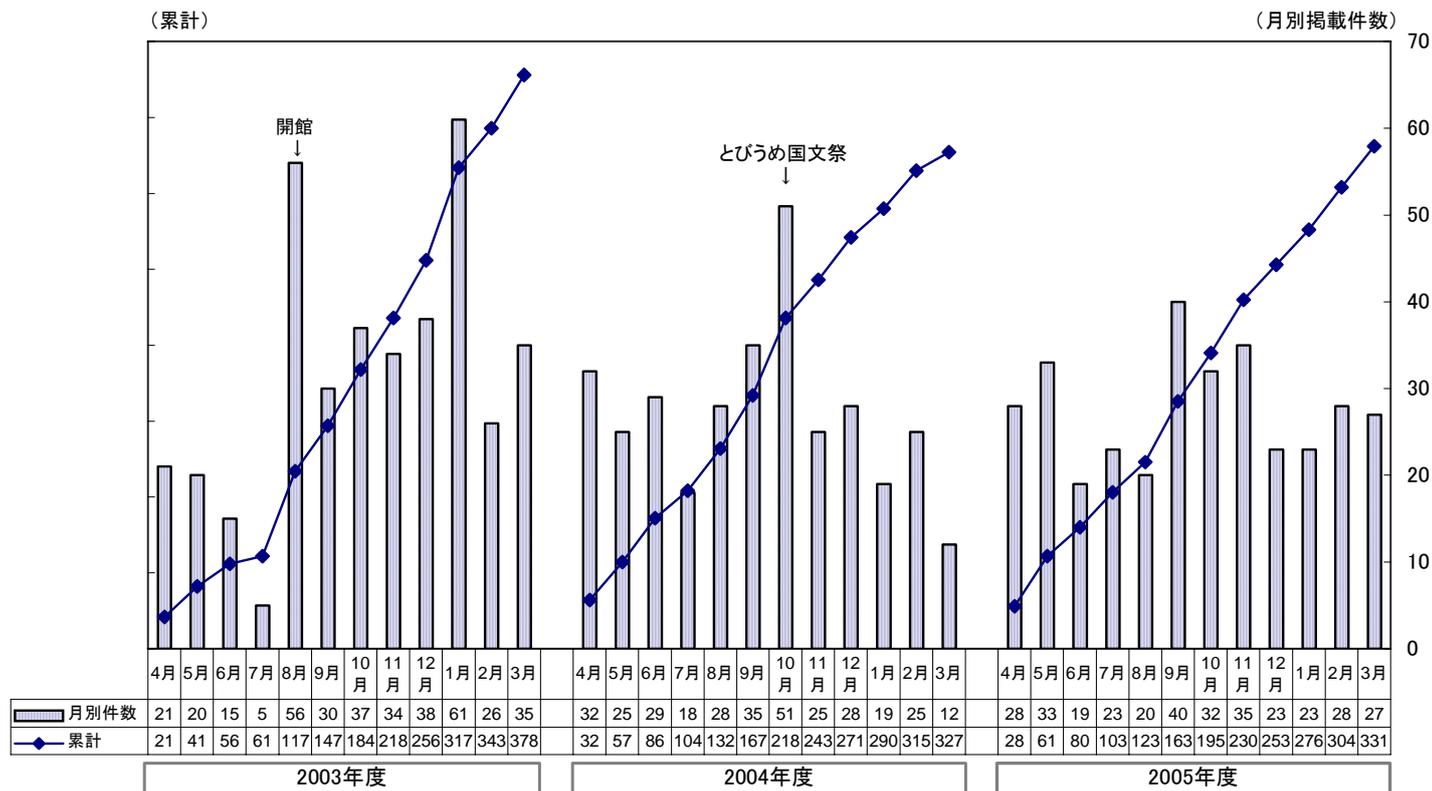
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、2003年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、2005度も、引き続きパブリシティ効果の算出を行なった。

(1) 2005年度の掲載記事の件数と内容

- 2005年度(2005年4月～2006年3月)についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は331件で(図表4-2)、2004年度(327件)を若干上回る件数となっている。
- 開館年度で話題性が高かった2003年度、とびうめ国文祭の開催で特に10月に関連記事が多かった2004年度と比べ、2005年度は大きなイベントはないものの、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事が毎月コンスタントに掲載されている。

図表4-2 新聞記事掲載件数の推移(2003～2005年度)



資料) 「日経テレコン」記事検索の結果より作成

- 新聞別に見ると、最も多いのは西日本新聞(149件)、次いで、朝日新聞(48件)、読売新聞(46件)、日経新聞(37件)、毎日新聞(34件)となっている(図表4-3)。朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日経新聞の大部分は、地方版である。
- その他は、熊本日日新聞、神戸新聞、東京新聞等となっている。

図表4-3 新聞別件数一覧(2003～2005年度)

掲載紙	掲載件数		
	2003年度	2004年度	2005年度
西日本新聞	151	147	149
読売新聞	40	61	46
朝日新聞	78	52	48
日本経済新聞	34	32	37
毎日新聞	58	31	34
その他	17	4	17
計	378	327	331

資料)「日経テレコン」記事検索の結果に基づく

- これら記事を、
 - ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
 - ② 北九州芸術劇場のPRキャンペーン、劇場主催イベントの紹介記事
 - ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
 - ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事(会場名が「北九州芸術劇場」)
 - ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベントの情報提供(会場名が「北九州芸術劇場」)
 の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①と②を抽出したところ、159件であった。
- その内容を、「自主事業／共催事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、75件、25件、25件、34件であった(図表4.4)。
- 2004年度に比べて、記事件数は163件から159件と若干減少しているが、内容をみると、とびうめ国文祭に関連した「貸館事業」と「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類される記事が多かった2004年度に比べて、2005年度は、「自主事業／共催事業」と「学芸事業」の件数が大きく増えている。
- 「自主事業／共催事業」については、「時のなかの時ーとき」、「禁色」、「不時着」、「ルル～破滅の微笑み」、「イッセー尾形とフツーの人々」、「クラウディアからの手紙」、「その河を超えて、五月」、「IRON」など、北九州芸術劇場以外でも上演される多数のプログラムが、全国紙や全国紙の地方版でもとりあげられている。「ルル～破滅の微笑み」については、北九州芸術劇場プロデュース、「IRON」については、「飛ぶ劇場」と北九州芸術劇場の共同製作ということが前面に出る形で紹介されている。
- 「学芸事業」については、表現教育事業やリーディング事業のほか、2005年度から始まった「Next Generation's Theater」(NGT:北九州で活動する次世代クリエイターの作品を紹介する公演)事業が、地元の若い人材や若い劇団の育成・支援という視点から、複数の記事で紹介されている。
- これら159件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億9,000万円という結果となった(図表4.4)。件数で見ると、163件から159件と若干減少しているものの金額で見ると、2004年度(1億7,700万円)から増加した。これは、一つ一つの掲載記事の大きさ(文字数)が増えているためである。2004年度以上のパブリシティ効果が算出されたこと、

特に、主催／共催事業や学芸事業などの劇場が主軸とする事業の掲載量が増えていることは、劇場の事業が広く認知されてきたことを示すものである。劇場側の積極的な事業展開と広報活動の成果として評価すべきであろう。

図表4-4 新聞掲載記事の内容と金額換算(2003～2005年度)

	2003年度		2004年度		2005年度	
	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)
自主事業／共 催事業	70	62,140	54	46,211	75	110,044
学芸事業	8	5,331	5	2,141	25	15,505
貸館事業	46	27,072	43	27,235	25	37,678
その他事業	56	114,683	61	101,577	34	26,622
計	180	209,226	163	177,164	159	189,849

注) 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

第5章 事業評価の基本フレームに基づいた評価結果

最後に、初年度(2003年度)の調査研究で設定した事業評価の基本フレームに基づいて、03年度から05年度までの3ケ年の北九州芸術劇場の事業評価の結果を整理した。

1. 事業評価の基本フレーム

初年度(2003年度)調査で設定した評価の基本フレームは次の4つである。

- 劇場の計画目標に関する評価:北九州芸術劇場の事業の基本方針である「創る」「育つ」「観る」に基づき、これらの計画目標がどの程度達成されているか
- 劇場の運営状況に関する評価:観客や劇場利用者への各種サービス、安全管理や清掃・警備など、劇場の運営が適切に行われているかどうか
- 劇場の経営状況に関する評価:事業収支の面で十分な経営努力が行われているか、円滑な組織運営が行われているかどうか
- 劇場運営に伴う派生的効果に関する評価:経済的効果、パブリシティ効果など、劇場の運営に伴ってどのような効果がどの程度発生しているか

2. 評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表5-1に整理したとおりであるが、そのポイントを以下に記述した。

(1) 劇場の計画目標に関する評価

①3つのコンセプト「創る」「育つ」「観る」に関する評価

- 2005年度は、「創る」「育つ」「観る」という3つのコンセプトをより具現化した事業が戦略的に行われている。
- 「創る」では、北九州芸術劇場のプロデュース公演として北九州発の作品を全国展開するとともに、「リーディングシアター」、「ダンスラボ」などがシリーズ化された。また、「育つ」についても、学校出前演劇ワークショップが4校で実施されたほか、「Next Generation's Theater (NGT)」をシリーズ化し、公演数や入場者数・参加者数を大きく伸ばしている。
- 04年度には、「育つ」という基本方針に対応する学芸事業について、アンケート調査、グループインタビューを実施したが、学芸事業に対する参加者の満足度は高い。また、「人間関係に広がり生まれた」、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」、「仕事や活動の幅、可能性が広がった」など、学芸事業への参加の成果について、幅広い積極的な回答が寄せられ、グループインタビューでも鑑賞事業だけでは得られないような深い効果を指摘する声が多かった。これらは、表面には現れにくい、劇場運営にともなうアウトカムとして評価できよう。
- また、「観る」では、「創る」「育つ」の育成型事業と連携し、中・小劇場での特徴ある現代・小劇場演劇やダンス・現代舞踊を中心としたラインナップに移行しているが、観客調査の結果では、03年度、04年度から引き続き、「公演内容」への満足度の高さが顕著で(05年度の満足層の割合:97.0%、「たいへん満足」の割合:52.1%)、公演ラインナップの変化に関わらず、公演内容は観客から高い評価を得ている。

- 一方で、公演事業の2005年度の入場率は82.4%で、03年度(88.2%)、04年度(88.7%)から低下している。このことは、劇場の戦略的な運営に基づいた一次的な傾向ととらえることも可能だが、これまで北九州市では公演の限られていた現代・小劇場演劇やダンス・現代舞踊のさらなる観客開拓が求められよう。観客調査では、年間鑑賞頻度が11回以上のヘビーユーザーが増加しているという結果も出ており(図表2-1)、そうした層のさらなる拡大策が期待される。
- また、開館の03年度から3ケ年にわたり、「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針いずれについても、観客の支持率は90%を超えている。本調査とは別に実施した市民調査の結果でも、「創る」「育つ」「観る」いずれについても市民の支持率は80%を超えており、観客、市民いずれからも、運営方針への支持率は高い。特に、「育つ」については、市民から「ぜひやってほしい」との回答が50%を超えており、地域とともに育つ劇場を望む声は高い。これら3つの運営方針は、当面堅持することが望まれる。

②計画目標の達成に関連した評価

- 北九州芸術劇場の認知度や劇場への意見について、市民調査の結果をみると、北九州芸術劇場の認知度は84%と高い。また、北九州芸術劇場に関しては「これからの時代に必要な施設である」、「市の文化行政のシンボル」といった肯定的な意見が多いことは評価できる。一方、劇場事業や公演情報に関する情報発信については不満に思う市民が多く、いかに、広く一般市民を対象とした情報提供を行なっていくかは検討課題である。
- 北九州芸術劇場が開設された効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多く、この3ケ年で一定の効果は生まれていると考えられるが、こうした効果がより幅広く実感されるようになるには、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の継続が必要であろう。

(2) 劇場の運営状況に関する評価

- まず、観客サービスについて、2003年度の要改善項目(満足率70%未満)であった「広報・告知の方法と内容」、「チケット販売のしくみ」に関する観客満足度はかなり改善された。満足度の改善は、開場から3年が経過し、観客が情報収集やチケット購入に慣れてきたことも要因であると考えられるが、劇場側のサービス向上への取り組みも大きいと言えよう。
- 03年度から改善の望まれる項目(満足率80%未満)であった「劇場ロビーにおける飲食・物販サービス」、「劇場スタッフの応対(電話、窓口)」のうち、後者は04年度で満足層が9割を超えるまで改善され、05年度はさらに93%まで満足層の割合が高まった。一方、前者は04年度、05年度と改善傾向が見られるものの、05年度でも満足率は79%にとどまっており、さらなる改善が望まれる。
- 03年度から満足度の高かった「フロントサービスの内容と質」は、さらに満足度が高くなり、ほぼ100%近い観客が満足しており、「劇場スタッフの応対(電話、窓口)」とともに、劇場の顧客応対は高い評価を受けている。
- また、04年度からは、施設利用に関するアンケート調査を実施し、概ね満足度の高い回答を得ているが、回収がむずかしいことから、劇場利用者に対するサービスや専門的・技術的サービスの状況を評価できる十分な調査結果が得られていない。この点については、今後の継続調査や情報収集が課題といえる。

(3) 劇場の経営状況に関する評価

- 話題性、集客性の高かった03年度の開館記念事業から、04年度以降は「創る」「育つ」を重

視した育成型事業にシフトしていること、それに連携し、「観る」では、中劇場を中心とした特徴ある公演事業を実施していることで、事業収入は04年度、05年度と減少傾向にある。

- これは開館3年で、劇場が本来のミッションに基づいた運営にシフトし始めた結果だと考えられるため、公演プログラムの内容と照らし合わせたきめ細かな検証と、プログラムごとの入場者、収入の拡大策の検討が必要であろう。
- 組織運営については、評価調査は未実施の状態で、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

(4) 劇場運営に伴う派生的な効果

- 2005年度は、04年度に引き続き、劇場運営に伴う経済波及効果とともに、雇用効果についても試算した。
- その結果、劇場の運営管理、主催事業の最終需要は約12.0億円、主催事業の観客の消費支出は約2.0億円、それらの経済波及効果は17.2億円である。また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約6.8～8.0億円、経済波及効果が約9.3～10.6億円である。
- 経済波及効果の誘発係数は04年度、05年度とも運営管理・主催事業で1.44、貸館を含めると1.40という結果となっており、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。
- 05年度に試算した雇用効果については、就業者ベースで190～207人、雇用者ベースで161～173人という結果となっている。
- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する記事件数は04年度を若干下回ったものの、自主事業／共催事業および学芸事業の掲載件数が大きく増加した。これは、劇場側が積極的な情報発信をしていること、さらに、劇場事業全般への認知が広がってきていることを示すこととして、評価できよう。
- 新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、05年度は約1億8,900万円と、04年度を若干上回る規模になっている。これは、市の事業に対する補助金約1.2億円を大きく上回っており、北九州芸術劇場の事業や運営は高いパブリシティ効果を生み出していると言える。

3. 今後の課題

本調査では、北九州芸術劇場の事業評価調査として、2003年度から以下のような調査を行ってきた。

- 劇場運営基礎データの収集・分析(03年度～)
- 公演に来場した観客に対するアンケート調査(観客調査)の実施(03年度～)
- 学芸事業参加者へのアンケート調査、グループインタビュー(04年度)
- 専門家による座談会(開場から1年間の劇場運営の成果について)(04年度)
- 経済波及効果、パブリシティ効果の把握分析(04年度、05年度)

また、本調査とは別に、2005年度には北九州市民を対象とした市民調査も実施された。これらの調査は、劇場評価の基礎データとして今後も継続すべきだと考えられるが、さらに、幅広い視点から事業評価を行うためには、今後は次のような調査の実施も検討すべきであろう。

- 観客に対するグループインタビュー
- 貸館利用者に対する満足度調査(04年度、05年度に実施した施設利用に関するアンケート調査の充実)

- 安全管理や清掃・警備など、劇場運営の基礎的な環境整備の状況把握
- 組織の運営実態(内部スタッフへのインタビュー調査やディスカッションなど)

評価は評価自体が目的ではなく、PDCA サイクル(Plan→Do→Check→Action)に沿って、事業や運営の改善につなげていくことが重要である。また、評価の結果を市民に積極的に公開してアカウンタビリティを果たしていくことも、重要な要件であろう。

3年間の調査では、事業評価の基礎となる各種データの分析、ならびにアンケート調査やグループインタビュー等による観客や利用者からみた評価などの分析が中心となり、残念ながら、評価結果に基づいた改善計画の策定までには至らなかった。

今後は、3年間の事業評価の結果を実際の事業や運営の改善に結びつけていくこと、この評価の結果を市民に広く公開し、劇場の運営実績や成果などを一人でも多くの市民に知ってもらうこと、そして、市民の声をこれまで以上に北九州芸術劇場の運営に反映させていくことが期待される。

図表5-1 事業評価の基本フレームに基づいた評価結果一覧

* アンケート調査結果については、◎、○、△、×の4段階評価とした。
 ** 支持率、満足層の割合は、無回答を除いて算出した数値である。

評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標(例示)と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
基本目標	基本目標の達成度に関する調査結果		
①3つのコンセプト－[創る][育つ][観る]－に関する評価			
<p>[創る] 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。</p>	<p>[2003年度] ・「ファウスト」、「大砲の家」、「シアターラボ」の3事業を実施。「ファウスト」は世田谷パブリックシアターで、「大砲の家」は伊丹アイホールで、北九州芸術劇場プロデュースとしても公演。 ・「ファウスト」入場率:東京公演97%、北九州公演92% ・「大砲の家」入場率:伊丹公演64%、北九州公演88%</p> <p>[2004年度] ・「わたしの青い鳥」、「冒険王」、「シアターラボ」、「ルル」の4事業を実施。「ルル」は世田谷パブリックシアター、まつもと市民芸術館で、北九州芸術劇場プロデュースとしても公演(公演が2005年4月以降であったため、実績は05年度に計上)。</p> <p>[2005年度] ・「ルル」、「わたしの青い鳥」、「IRON」、「ダンスラボ」、「リーディングシアター」、「シアターラボ」の6事業を実施。「ダンスラボ」と「リーディングシアター」はシリーズ化。 ・「ルル」は世田谷パブリックシアター、まつもと市民芸術館で、「IRON」は伊丹アイホール、まつもと市民芸術館、福岡西鉄ホール、熊本県立劇場、東京芸術劇場で、北九州芸術劇場プロデュースとして全国展開。 ・公演回数は45回と大きく増加、うち北九州芸術劇場以外での公演数は26回。</p> <p>[2003→2004→2005年度] *カッコ内の数字は、(03→04→05年度) ・当該運営方針に対する観客の支持率(94.4%→93.5%→94.0%)○、市民の支持率(81.4%)◎</p>	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> 新シリーズの開始、全国展開などで事業数、公演数、入場者数が増加。北九州芸術劇場独自の演劇作品の創造は積極的に実践されている。 “ものづくりの街”北九州のアピールや地域活性化については今後の長期的な課題。 「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> 観客調査の継続。 (学芸調査、市民調査について)長期的な視点(5年後、10年後)での継続的な調査の検討、実施。 定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
<p>[育つ] アウトリーチなど、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育つ劇場を目指す。</p>	<p>[2003年度] ・表現教育、戯曲講座、俳優養成講座、バックステージツアー、コンテンポラリーダンスワークショップ、学校出前演劇ワークショップなど、多様な事業を実施。 ・参加者の満足度については未調査。</p> <p>[2004年度] ・参加者の講座やワークショップに対する総合満足層(97.5%、うち「たいへん満足」:56.1%)◎ ・「たいへん満足」:講座・ワークショップの内容(62.6%)、講師(72.4%)、劇場係員の対応(63.4%)◎ ・アウトカム評価:「人間関係に広がり生まれた」(66.7%)、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」(65.0%)、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」(56.9%)、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」(50.4%)、「仕事や活動の幅、可能性が広がった」(43.1%)など。</p> <p>[2005年度] ・表現教育推進事業、劇場塾(戯曲講座、俳優講座、アーツマネジメント、舞台技術講座等)、演劇やダンスのワークショップ、バックステージツアーに加え、学校出前演劇ワークショップを4小学校で実施。また、新事業「Next Generation's Theater (NGT)」がスタート、シリーズ化。</p> <p>[2003→2004→2005年度] ・当該運営方針に対する観客の支持率(93.1%→93.4%→93.3%)○、市民の支持率(89.7%)◎</p>	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校出前ワークショップの実践や新規事業のシリーズ化などで、事業への参加者数が増加。 04年度に実施したアンケート調査では、学芸事業参加者の事業に対する満足度は極めて高く、グループインタビュー調査でも、参加者に大きなインパクトを与えていることが明確となった(アウトカム)。 「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 	<p>→</p>

1. 劇場の計画目標に対する評価

評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標(例示)と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<p>1. 劇場の計画目標に対する評価</p> <p>【観る】 舞台芸術の先進都市からエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。</p>	<p>[2003年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「阿国」、「ピーターパン」、「イッセー尾形のとまらない生活」、「レッツゴー忍法帖」、「リチャード三世」、「ユーリタウン」など、幅広い公演を実施。 主催事業・北九州演劇祭・共同主催事業の入場者数は45,390人。 <p>[2004年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「伝説の女優 Legends!」、「子午線の祀り」、「ロミオとジュリエット」、RSC「オセロー」、子どものためのシェイクスピア「ハムレット」、イッセー尾形の一人芝居、山海塾「ひびき」など、幅広い公演を実施。 創造事業・公演事業・北九州演劇祭・提携事業の入場者数は37,095人。 <p>[2005年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 小劇場・現代演劇、ダンス・舞踊公演を中心に、商業演劇や歌舞伎公演など幅広い公演を実施。「アジアパフォーミングアーツフェスティバル」として、韓国との合同公演も実施。 創造事業・公演事業・北九州演劇祭・提携事業の入場者数は40,047人。 市民からみた劇場開設の効果:「劇場・ホールで鑑賞する機会が増えた」(28.2%) <p>[2003→2004→2005年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「公演内容」の満足層:観客調査(95.6%→96.2%→97.0%)、「たいへん満足」の割合:49.8%→53.0%→52.1%◎、市民調査(93.8%)◎ 「開場記念公演全体の内容」の満足層(88.5%)→「年間ラインナップの満足層」:(76.6%→78.9%)○ 当該運営方針に対する観客の支持率(99.2%→99.2%→99.3%)◎、市民の支持率(89.7%)◎ 	<ul style="list-style-type: none"> 「創る」「育つ」の育成事業と連携し、中劇場を中心とした小劇場・現代演劇や、ダンス・現代舞踊を中心としたラインナップに移行しているが、05年度も公演内容に対する観客満足度が極めて高く、本目標の達成度は高いと評価できる。 一方、小劇場・現代演劇や、ダンス・現代舞踊のさらなる観客開拓が求められる。 「観る」に対する観客および市民の支持率は極めて高いことから、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 専門家へのインタビュー調査(04年度)でも概ね高評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 観客調査等の継続。 定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
<p>②計画目標の達成に関連した評価</p> <p>【劇場の認知度や劇場に対する意識等】</p> <p>北九州芸術劇場の存在や事業は市民からどのように認知されているか。 また劇場や劇場事業が市民にどのような影響を与えたか。</p>	<p>[2005年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 北九州芸術劇場の認知度や利用率: <ul style="list-style-type: none"> 認知度:(83.7%)◎ (知っている場合の)来場・利用率:(43.7%)○ 来場したことがない場合、今後の来場意向:(68.6%)○ 来場したことがある場合の総合的な満足度(満足層の割合):77.9% ○ 北九州芸術劇場に関する意識: <ul style="list-style-type: none"> 「これからの時代には必要な施設」(46.0%)◎ 「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」(44.3%) △ 「北九州市の文化行政のシンボルあるいは中心となる施設」(34.9%)◎ 劇場ができた効果(アウトカム評価): <ul style="list-style-type: none"> 「生活の中で芸術文化に触れる機会が増えた」(21.6%) ○ 「普段出会えない人に会えるなど人間関係に広がり生まれた」(13.1%) ○ 	<ul style="list-style-type: none"> 市民調査の結果、北九州芸術劇場の認知度は高く、来場・利用率も44%。今後、さらに、来場意向のある人に劇場まで足を運んでもらうことが検討課題。 北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、市民が感じる情報不足に対応するため、劇場や劇場事業に関する情報をいかに広く一般市民に届けるかは検討課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目、評価指標等の検討。 長期的な視点(5年後、10年後)での継続的な調査の検討、実施。

評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標(例示)と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
2. 劇場の運営状況に関する評価	[観客サービス] 劇場の観客に対して質の高いサービスが提供されているか。 [2003→2004→2005年度] <ul style="list-style-type: none"> • 広報・告知の方法と内容:「公演情報の入手しやすさ」の満足層(64.9%→73.3%→77.5%)○(改善) • チケット販売のしくみ:「チケットの予約・購入のしやすさ」の満足層(53.1%→72.9%→79.2%)○(改善) • 客席案内等のフロントサービスの内容と質:「劇場係員の対応」の満足層(91.9%→97.3%→97.7%)◎ • 劇場スタッフの対応(窓口、電話など):「電話予約やチケットカウンターの対応」の満足層(79.8%→90.7%→92.6%)◎(改善) • 劇場ロビーにおける飲食・物販サービスの内容と質:「劇場ロビーの飲食サービス」満足層(73.2%→77.6%→79.1%)△(改善傾向) 	<ul style="list-style-type: none"> • 03年度からの要改善項目(満足率70%未満):「広報・告知の方法と内容」、「チケット販売のしくみ」に関する満足度は、この3年間で大きく向上(観客の慣れによる要因も大きいと考えられる)。 • 改善の望まれる項目(満足率80%未満)であった「劇場スタッフの対応」、「劇場ロビーにおける飲食・物販サービスの内容と質」は、前者の満足度は大きく改善したが、後者は改善傾向が見られるものの、さらなる改善が望まれる。 • 2003年度から満足度の高かった「フロントサービスの内容と質」は、さらに満足度が向上、ほぼ100%近い観客が満足している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 観客調査の継続。 • 安全管理、清掃、警備等の実施状況に関するデータ分析、ヒアリング調査等の実施。
	[劇場利用者サービス] 劇団や市民団体など利用者に適切なサービスが提供されているか。 [2003、2004年度] <ul style="list-style-type: none"> • 貸館利用者の受付サービス:未調査 • 楽屋等バックヤードのサービス:未調査 [2004年度、2005年度] <ul style="list-style-type: none"> • (貸館利用者調査) 	<ul style="list-style-type: none"> • 貸館利用者調査は実施したが、評価に十分な調査に至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者調査の継続とともに、調査の実施手法の検討。 • グループインタビュー調査の実施。
	[専門的・技術的サービス] 劇場の専門的・技術的サービスの水準や提供状況は適切か。 [2003、2004年度、2005年度] <ul style="list-style-type: none"> • 舞台制作等に関する専門的なサービス:未調査 • 劇場設備のメンテナンス状況:未調査 • 劇場技術スタッフの対応:未調査 [2004年度、2005年度] <ul style="list-style-type: none"> • (貸館利用者調査) 	<ul style="list-style-type: none"> • 貸館利用者調査は実施したが、評価に十分な調査に至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者調査の継続とともに、調査の実施手法の検討。 • グループインタビュー調査の実施。 • 設備、機器類のメンテナンスの実施状況に関するヒアリング調査等の実施。
	[その他] その他、劇場の事業や運営は適切に行われているか。 [2003、2004年度、2005年度] <ul style="list-style-type: none"> • 事業評価への取り組み:事業評価調査を実施 • アカウンタビリティへの取り組み:未調査 	<ul style="list-style-type: none"> • 未調査のため評価保留 	<ul style="list-style-type: none"> • 未調査のため評価保留
3. 経営状況に関する評価	[事業収支] 事業収支の面で十分な経営努力が行われているか。 [2003→2004年度→2005年度] <ul style="list-style-type: none"> • 公演事業(創造・公演・提携・演劇祭)の平均入場率(88.2%→88.7%→82.4%) • 事業(チケット)収入:(215,389千円→145,429千円→110,060千円) • 外部資金の獲得(7,000万円/事業費の17.7%→6,700万円/事業費の19.9%→6,500万円/事業費の22.0%)○ [2003、2004年度、2005年度] <ul style="list-style-type: none"> • 経費削減に向けた取り組み:未調査 	<ul style="list-style-type: none"> • 平均入場率、事業収入は減少傾向。劇場本来のミッションに基づいた運営にシフトし始めた結果と考えられるので、今後の検証と、入場者数、収入の拡大策の検討が必要。 • 外部資金の獲得への努力は評価。 	<ul style="list-style-type: none"> • 継続したデータ収集・分析の実施。 • 詳細調査の必要性の検討、実施。
	[組織運営] 適切なスタッフ体制や効率的な組織運営が行われているか。 [2003、2004、2005年度] <ul style="list-style-type: none"> • 組織体制の適切さ:未調査 • 業務内容・ボリュームの適切さ:未調査 • 意志決定の円滑さ:未調査 	<ul style="list-style-type: none"> • 未調査のため評価保留 	<ul style="list-style-type: none"> • 運営スタッフ等に対するインタビュー調査、業務実態に関する調査などの実施。 • 評価項目、評価指標等の検討。
	[その他] その他、経営面で適切な対応が行われているか。 <ul style="list-style-type: none"> • 効率的な運営に向けた取り組み:未調査 	<ul style="list-style-type: none"> • 未調査のため評価保留 	<ul style="list-style-type: none"> • 運営スタッフ等に対するインタビュー調査、業務実態に関する調査などの実施。 • 評価項目、評価指標等の検討。

評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標(例示)と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<p>[経済的効果] 劇場運営によってどのような経済的な効果が生み出されたか。</p>	<p>[2003年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済波及効果:劇場の管理運営、公演事業等の最終需要は約12億円、経済波及効果は23億円程度(参考値) 観客の観劇前後の消費支出額は約1.5億円 <p>[2004年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済波及効果:劇場の運営管理、主催事業の最終需要は約12.4億円、経済波及効果は約17.7億円(産業連関表による計算値) 主催事業の観客の観劇前後の消費支出(交通費含む)は約2億円、経済波及効果は約2.9億円。 運営管理、主催事業、主催事業の観客の消費支出に伴う合計最終需要は約14.3億円、経済波及効果は約20.6億円 貸館事業、貸館観客の消費支出による最終需要は約8.8～10.9億円、経済波及効果は約11.7～14.6億円(参考値) <p>[2005年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済波及効果:劇場の運営管理、主催事業の最終需要は約12.0億円、経済波及効果は約17.2億円(産業連関表による計算値) 主催事業の観客の観劇前後の消費支出(交通費含む)は約2億円、経済波及効果は約2.9億円。 運営管理、主催事業、主催事業の観客の消費支出に伴う合計最終需要は約14.0億円、経済波及効果は約20.1億円 貸館事業、貸館観客の消費支出による最終需要は約6.8～8.0億円、経済波及効果は約9.3～10.6億円(参考値) 誘発係数:04年度、05年度とも1.44(運営管理・主催事業) 雇用効果(北九州市内):就業者ベース 190～207人、雇用者ベース 161～173人 	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> 劇場の事業規模に応じた経済効果が発生。 観劇に伴う観客の消費活動も活発。 	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続調査の実施、精度アップ(劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ)。 所得増、雇用増、税収増の試算。 貸館に伴う経済波及効果の精度アップ(貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査)。
<p>[パブリシティ効果] 劇場事業によって、北九州市の広報面でどのような効果があったか。</p>	<p>[2003年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> シティプロモーション:新聞掲載件数378件(全国紙掲載含む)、うち180件は公演紹介・取材記事、劇評、劇場イベント紹介など イメージアップ、劇場の認知度:同上 パブリシティ効果の規模:約2億1,000万円(180件の新聞記事のみ) <p>[2004年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> シティプロモーション:新聞掲載件数327件(全国紙掲載含む)、うち163件は公演紹介・取材記事、劇評、劇場イベント紹介など イメージアップ:同上 劇場の認知度:同上 パブリシティ効果の規模:約1億7,700万円(163件の新聞記事のみ) <p>[2005年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> シティプロモーション:新聞掲載件数331件(全国紙掲載含む)、うち159件は公演紹介・取材記事、劇評、劇場イベント紹介など。04年度と比較し、自主事業/共催事業、学芸事業関連の記事数が増加。 イメージアップ、劇場の認知度:同上 パブリシティ効果の規模:約1億8,900万円(159件の新聞記事のみ) 	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞をはじめとした各種媒体への露出度は高く、特に自主事業、学芸事業関連記事でパブリシティ効果の規模が大きくなったことは、劇場側が積極的な情報発信をしていること、劇場事業全般への認知が広がってきていることを示すとし、評価。 新聞掲載記事だけで、市の事業補助金を上回る規模となっており、劇場事業や運営が生み出すパブリシティ効果は高い。 	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続調査の実施。
<p>[その他の効果] 劇場運営に伴い、その他、どのような派生的効果があったか。</p>		<p>→</p>	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> その他の派生効果の洗い出し、評価項目、評価指標等の検討。